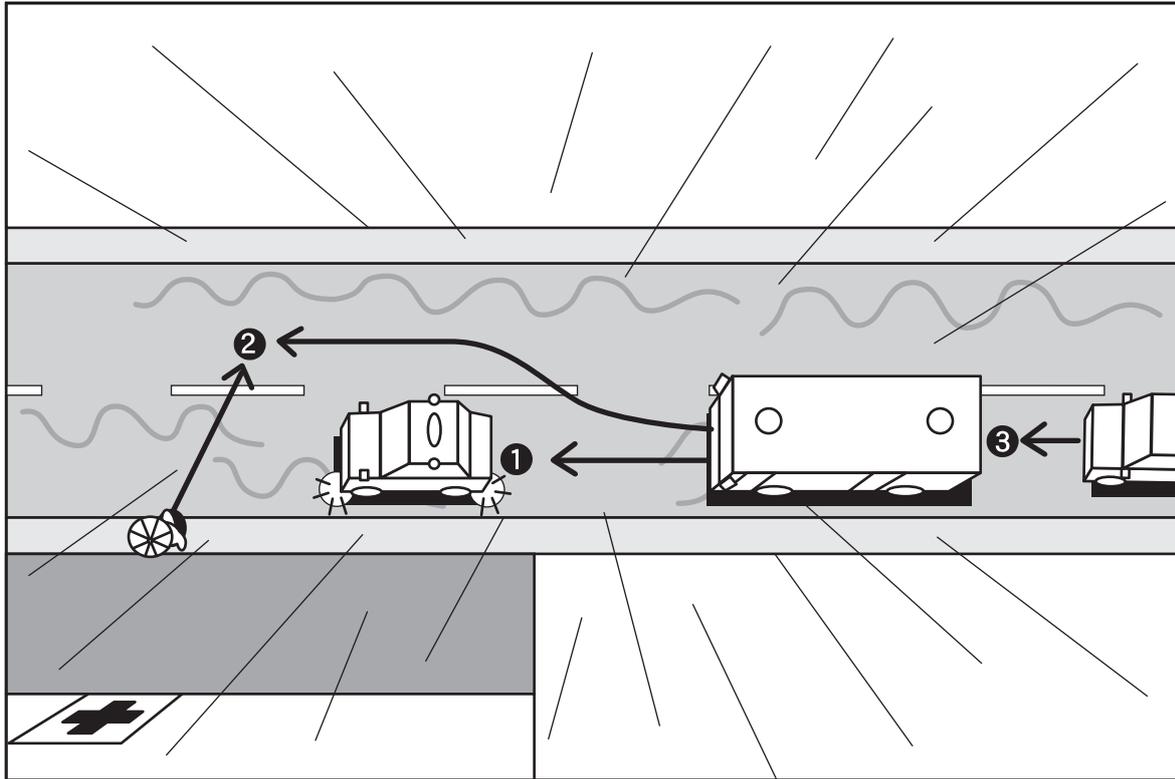


## 〔バス3〕雨天時の走行



### 1．主な危険要因の例

- ① 前方のタクシーが左の合図を出しており、病院の駐車場へ入っていくか、もしくは停止することが予測される。そのため、そのまま進行すると減速や停止をしたタクシーに追突する危険がある。
- ② タクシーの前方に立っている歩行者はタクシーを待っているとは限らず、道路を横断してくる可能性もあるので、タクシーを追い越していくとはねる危険がある。
- ③ 急停止すると、後続車に追突される危険がある。

### 2．安全運転の例

乗客を降ろしたり乗せたりするタクシーは、どこで停止するかわからないので、タクシーの後方を走行するときには、あらかじめ車間距離を十分にとっておく。

タクシーは病院へ患者を乗せてきた可能性も十分にあるので、タクシーの前方の歩行者をタクシー待ちだと思い込んで、タクシーを追い越すのは危険である。歩行者の動向をよく確認する必要がある。

### 3．乗務員指導のポイント

タクシーの後方を走行するときは車間距離を十分とる、特に雨天時は路面が滑りやすく停止距離も長くなるので、乾燥路面のときよりも長くとるよう指導する。

病院付近は歩行者の出入りも多いので、あらかじめ速度を落として走行するとともに、歩行者の動向によく注意する。